

# 刃物を持った男が院内に!

## 和歌山病院防犯研修

美浜町和田、国立病院機構和歌山病院は30日、御坊警察署生活安全係を講師に防犯研修を開いた。

去る7月の相模原障害者施設殺傷事件をふまえ、県から安全管理徹底の依頼の通知も受けたことから、初めての実施。

はじめに、4階南病棟に刃物を持った不審者が現れ



不審者に職員がバリケードやサスマタで応じた模擬訓練の様子

たとの想定で模擬訓練を行った。警察官が黒い帽子にサンクラス、マスク姿で右手に刃物を持つ不審者役を熱演。職員らは、一人が「落ち着いてください」と不審者に声をかけているうちに、寝台やいすなどで患者らがいる病室へ向かう廊下にバリケードをつくり、サスマタを向けて応じた。

実演後、不審者役を演じた警察官は「これでは何人かが刺されます。刃物の有無で人が死ぬか否かが全く違ってくる。一番最初にお願いたいののは、戦わないこと」と評して、注意点を指南。接近を避ける、相手の肩と腕下を挟む、複数人に対応する、などサスマタを使う際の効果的方法や、サスマタがない場合のいすやほづきを使った代替策を解説した。

続いて、1階多目的室に移り、サスマタの使い方や簡単な護身術を実習。警察官が「サスマタの使い方は自由です」と、二股部分を相手に向ける方法ほか、持ち手を使って相手の刃物などを払い落とす方法、相手を壁や床に押さえ込む方法などをやって見せ、スタックすらも実際に試した。「人が暴れたらこれだけ力があ

るんや、と理解して」と警察官。複数の避難経路をシュミレーションしておく、バリケードのつくり方を訓練するなど、事前の準備の必要性も説いた。南方良章院長は「道具を用意していても、実際に使ったことがなかった。デモをやってみることで、非常に勉強になりました。定期的に繰り返し実施し、全職員が対応できるよう努めたい」と話した。